

【一】 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ただならぬ胸騒ぎを覚えたのは、祖父の家の前まで来たときだった。玄関ドアが開いていて、中から声がちらつときこえたのだ。通り過ぎる耳に「瞬屈いた声は、どうやら緊迫していた。」

プールの帰り、^① 佑は祖父の家に寄ることにした。気になったからだ。たとえば一平がこねて学校を休んだら、帰りに様子を見に行く。そんな感じ。

空っぽになったガレージには、見覚えのない軽自動車が止まっていた。
誰のだろ？

自転車を止めた佑の耳に、今度ははっきり声がきこえた。

「ぼけてなぞおらん」

祖父の声だ。

「お父さんったら」

それをとりなすような、母の声も。

やっぱ。

佑は思わず玄関に走り込んだ。玄関に立っていた人が振り返った。

「あ、こんにちは」

林さんだった。

「ああ、佑くん」

林さんは笑顔^{えが}を張りつけた。

「林さんが心配して、来てくださったんだけどね」

一方の母は、眉毛^{まゆげ}が下がっていた。困りきった表情で、祖父を見やる。

おじいちゃんたら、こんな調子で。

無言の目くばせがそう言っていた。

「大事なことから、もう一度言おう。わしはぼけておらんっ！」

佑は母と顔を見合わせた。^{*}認知症は、自分が病気だという自覚が薄いの^{うす}が症状のひとつであることを、知っていたからだ。

だからふたりで首を横に振り合っただが、林さんだけはうなずいた。

「そうよ、大内さんはしっかりしてるわよ」

わざとらしい言い方ではなかった。

祖父は黙った。^② そのまましばらく間をとったのち、小さく息をついた。そして、言った。

— JA1A_1 —

落ち着いた声になっていた。

「ただ、『どうしたいのか』なんてきかれたって、答えられただけなのだ。こっちだって、人の世話になりたくないのは、やまやまなのだ。けれども自分ひとりでは、できないことがあるのも知っている。そこへきて、自分がどうしても言いたいかを言ったら、強制してるみたいじゃないかね。わしがまるで、横暴な頑固^{がんこ}じじいみたいじゃないかね」

いや、ちよつとはそうなんですけど。

^③ と一瞬、思いかけたが、佑は祖父を見た。まじまじと。祖父の言い分は、わかるような気がしたのだ。

じつと見た祖父の目は、空洞^{くうどう}なんかではなかった。見つめていたのは林さんではなく、自分の足元だったが、黒目にはしっかりと力があつた。

林さんもしばらく考え込むように黙っていたが、ふっと顔を上げた。

「なるほど。わかったわ」

感心したような声を出す。

「そうよね。そうよ。誰だって、誰かの世話になるのは申し訳ないと思ってるのよ。それを『どうしたいのか』なんてきかれたって、言いづらいわねえ。こっちは、言ってもらったほうが楽なんだけど、世話をされるほうとすればねえ」

林さんはすっきりしたように笑った。そして、佑に向かって説明してくれた。

「あのね、佑くん。私、今日は大内さんに希望をききに来たの。だって、せつかくもれび^{*}に来てもらっているんだもの。もつと快適に過ごしてもらおうと思ってるね。でも、大内さんの言う通りだわ。ありがとう。そう言われて、初めてわかったわ」

林さんにお礼を言われて、祖父は顔を赤くした。よっぽど恥^はずかしかったのだろうか。

「うむむ」

と唸^{うな}ったあと、

「わ、わしだって、好きでぼけてしまったわけではない」

そう言い残し、^④ せかせかと奥^{おく}に引^ひっ込んでしまった。

「申し訳ありません」

林さんに頭を下げた母の向かいで、佑はちよつと首^Bを傾^かげた。祖父が言い残していった言葉が引^ひつかかったのだ。

もう少し様子を見る、と、母が残ったので、佑はひとりで家に帰った。ダイニングでは、理子^{りこ}が焼きそばを食べていた。テーブルには、塩、コショウ、ソース、マヨネーズなどが

— JA1A_2 —

並んでいる。

母が帰ってこないの、自分で作ったらしいが、ひと目見ただけで、焼きそばのびきっているのがわかった。

「食べる？」

が、勧められると、猛烈にお腹がすいていたことを思いだした。なにしろ、プールの帰りなのだ。

「うん。いただく」

フライパンに残っていた焼きそばを、皿に大盛りにして、かき込んだ。

「うつまー」

見た目通り、のびきってはいたが、かむのもどかしいくらいの空腹には、充分おいしかった。

「そう？」

理子は不思議なものを見るように目を細めたが、なにかを思いだしたみたいに、その目を戻した。

「おじいちゃん、今日、デイスサービスに行かなかったんだって？」

「うん。今、心配してデイスサービスの人が来てた」

いっぱい口をもごもごさせながら、佑は答えた。麺はやわらかいくせに、キャベツとニンジンが固かった。しかも、ちよつと味も薄い。空腹が、あらかたおさまってくると、姉の作った焼きそばの、真の実力が見えてきた。

「味、薄かったら、いろいろあるから」

佑の箸が鈍ってきたのに気づいたのか、理子は、各種調味料を勧めてくれた。

「あのさ」

ソースを回しかけながら、佑は理子にたずねてみることにした。空腹がおさまったおかげか、引つかかっていたことを思いだしたのだ。

「おじいちゃんって、自分がぼけてることわかってんの？」

祖父の口からは、「ぼけてなぞおらん」というセリフを、これまで何回かきいていたから、最後に言い残した、「わしだって、好きでぼけてしまったわけではない」は不思議だったのだ。

すると、理子は意外な返事を返した。

「たまに、ふつとわかるみたいよ」

「へ？ そうなの？」

「うん。だって私たちだって、気分には波があるでしょ。佑だって楽しいときもあれば、落ち込んでしまうときもあるでしょ」

「そりゃあるよ」

遊ぶときは楽しいが、テストは嫌だ。悪い点数が返ってくると、さらに落ち込む。

「認知症の人は、その差が大きいらしいの。おじいちゃんも支離滅裂なときと、まともなときがあるでしょ」

「あるねえ」

「だから、まともなときには、自分がおかしいことがわかってしまって、あせったり落ち込んだりするんだって、お母さんが言ってた。おじいちゃん、この間泣いてたんだって」

「この間？」

「うん。お母さんが泊まりに行ったじゃん？ あとからきいたんだけど、そのとき、夜中仏壇の前でごによごによ言ってたんだって。『わしはどうしてこんなになってしまったのか』って」

「そうだったのか」

佑は誰かに素手で、心臓をつかまれたみたいな気になった。ひゅつと体の芯が引きつって、胸が熱く苦しくなる。

理子が席を立った。こちらがよろしくないのか、浮かない顔をしている。

「昨日返ってきたテストが最悪で。このままじゃまずいから、自習室に行く」らしい。

「おじいちゃんにとっては、認知症は、ほかの病気になるよりも、辛かったかもしれない。プライドが高いから」

理子は、はーつと重たいため息をついたが、佑にもわかる気がした。祖父はじつにかくしやくとしていたのだ。ちよつと前までは。

佑は荒い手つきでコシヨウを取った。ふたを開けて振りかける。

「ベックション」

鼻の奥が激しくツンとしたのは、コシヨウのせいではなかった。

(まはら三桃『奮闘するたすく』)

* 一平……佑のクラスメート。

* 認知症……記憶したり判断したりする能力が低下する病気。

* こもれび……祖父が利用しているデイスサービス(介護)施設。

* かくしやくと……年をとっても元気のいいさま。

問一

A「とりなす」B「首を傾げた」の意味として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A「とりなす」

ア しかる

イ なだめる

ウ 注意する

エ 困らせる

オ 世話をする

B「首を傾げた」

ア 疑問に思った

イ 考えこんだ

ウ 納得した

エ 興味を持った

オ 怒りを覚えた

問二

①「佑は祖父の家に寄ることにした」とありますが、佑がこのようにしたのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 家には姉しかいないので、祖父の家にいる母に昼食を作ってもらおうと思ったから。

イ 祖父の家のガレージに見覚えのない軽自動車が止まっていることが、気になったから。

ウ 祖父が、今日デイサービスに行っていないことを聞いて祖父の様子が気になったから。

エ 祖父が、無理矢理デイサービスに連れていかれるのではないかと心配になったから。

オ 祖父が、自分自身がぼけてしまったことに気づいているのかどうか気になったから。

問三

②「そのまましばらく間をとったのち、小さく息をついた」とありますが、この時の祖父の様子として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分が何を言ってもぼけていると決めつけ、話を聞こうとしない母や林さんにあきれている。

イ 林さんの言葉はわざとらしくはなかったが、家族以外は信用できないと思ひこんでいる。

ウ 自分のことをわかってくれる人が林さんしかいないとわかり、家族に絶望している。

エ ぼけていないと言ったものの、林さんの言葉に返す言葉が思いうかばずあせっている。

オ 林さんの言葉に冷静さを取りもどし、自分の気持ちを正直に言おうと思っている。

問四

③「と一瞬、思いかけたが、佑は祖父を見た。まじまじと」とありますが、この時の佑の気持ちを三十字で説明しなさい。

問五

④「せかせかと奥に引っ込んでしまった」とありますが、なぜ祖父は奥に引っ込んでしまったのですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 林さんや家族にぼけてなどいないことがようやくわかってもらえ、うれしくなったから。

イ 佑や母にぼけていることを認めるような発言をしてしまい、気まずくなってしまうから。

ウ 林さんの大げさな言い方をうそのように感じ、もう何を話しても意味がないと思ったから。

エ 佑や母にまで頑固じじいみたいだと思われていたことに、ショックを受けてしまったから。

オ 林さんにお礼を言われて恥ずかしくなってしまう、早くその場から去りたいと思ったから。

問六

⑤「心臓をつかまれた気になった」とありますが、佑はどのようなことに對してそう思ったのですか。三十字で答えなさい。

⑥「鼻の奥が激しくツンとしたのは、コショウのせいではなかった」とありますが、この時の佑の様子として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 少し前まではかくしゃくとしていたのにぼけてしまったことを認識している祖父の気持ちを考え、悲しくなっている。

イ 姉や母は祖父がぼけてしまったことに対して悲しむだけだが、自分は祖父を支えていこうと決意を新たにしている。

ウ 少し前まではかくしゃくとしていた祖父がぼけてしまった現実を前に自分はどうしたら良いかわからず、困っている。

エ 姉が作った焼きそばは、のびきっていて食べられたものではないので、コショウをかけて味をごまかそうとしている。

オ 祖父がぼけてしまったことを認識しているという事実を、姉や母が自分にだけかくしていたことをうらめしく思っている。

問七

【二】次の文章は『植物はなぜ動かないのか』の一部です。読んで、後の問に答えなさい。

植物の変化する能力を「可塑性」という。可塑性の大きい植物の中でも、特に雑草は可塑性が大きいとされている。雑草は環境に合わせて、自在に大きさを変化させることができるのである。

同じ種類の雑草であっても、大きい個体は一メートルを超えるような大きさになるのに、わずかにセンチの個体が花を咲かせているということもある。

このようなサイズの違いは、雑草以外の植物でも見られるが、雑草の場合は大きな特徴がある。それは、どんなにサイズが小さくても花を咲かせるということである。

私たちが育てる野菜や花壇の花は、生育が悪いと小さなままで花を咲かせることはできない。
A、雑草は違う。どんなに劣悪な条件で、小さな個体であつたとしても、花を咲かせ、実を結ぶのである。

逆境の中でもたくましく花を咲かせる小さな雑草は、多くの人の雑草のイメージに合うだろう。
A、雑草の可塑性の重要性はそれだけではない。

雑草学者として著名なベーカーは論文「雑草の進化(The evolution of weeds)」の中で「理想的な雑草」の条件として一二の項目を挙げているが、その中には以下のようなものがある。

「不良環境下でも幾らかの種子を生産することができる」

A、雑草のすごいところは、これだけではない。

ベーカーの理想的な雑草の中には次のような項目もある。

「好適条件下では生育可能な限り、長期にわたって種子を生産する」

B、条件が悪くても種子をつけるが、条件が良い場合には、たくさん種子を生産する
②
というのである。当たり前のように思えるかも知れないが、これはなかなか難しい。

私たちが栽培する野菜や花壇の花では、肥料をやりますと茎や葉ばかりが茂って、肝心の花が咲かなかったり、実が少なくなってしまうたりする。植物にとってもっとも大切な種子を残すということを忘れてしまうかのようなのだ。

A、雑草は違う。条件が悪い場合にも、最大限のパフォーマンスで種子を生産するが、条件が良い場合にもまた、最大限のパフォーマンスで種子を生産するというのである。

自分の持っている資源を、どの程度、種子生産に分配するかという指標を「繁殖分配率」というが、雑草は、個体サイズにかかわらず繁殖分配率が最適になることが知られている。

人間でもそうだが、条件が悪いときや逆境の中にあるときは頑張れるが、条件が恵まれているときに最大限の実力を発揮することは、かえって難しい。

— JA1A_7 —

条件が悪くても、条件が良くても、そこで得られる最大限の種子を残す。これこそが、雑草の強さの秘密なのである。

ヒメムカシヨモギという雑草は、道ばたや空き地、畑などあらゆる場所によく見られるキク科の雑草である。草丈は一メートルほどにもなるし、どこにでも生えているが、花も小さく目立たないせいか、目にとめる人は少ない。まさに、「名もなき草」の代表格と言えるだろう。

このヒメムカシヨモギは、本来は一メートルくらいの草丈になる比較的、大きな雑草だが、条件が悪いやせた土地では、まるで別の種類の雑草であるかのように、一〇センチ程度の小さな個体になる。

それだけではない。ヒメムカシヨモギは環境に応じて生活サイクルまで変化させてしまうのだ。

花壇に植える草花には一年草と越年草という種類がある。一年草は春に芽を出して秋には枯れてしまう種類であり、越年草は秋に芽を出して、冬を越して成長する種類である。花壇の草花の場合は、一年草か越年草かは、植物の種類によって決まっている。しかし、ヒメムカシヨモギは環境に応じて、一年草になったり、越年草になったりするのである。

ヒメムカシヨモギは、もともとは秋に芽生える越年草である。そして冬の間、葉を広げて栄養分を蓄え、春から夏にかけて成長し、花を咲かせるのである。

しかし、*攪乱の大きい場所では、ゆつくりと生長して花を咲かせている余裕はない。そこで、春から夏にかけて発芽し、数週間の間で成長して花を咲かせてしまうのである。つまり、一年草として生活をしているのだ。

また、ヒメムカシヨモギは北米原産の雑草だが、現在では世界中に広がっている。冬の寒い熱帯地域では、越冬の必要がないから、もっぱら一年草として暮らしているらしい。

こうして、臨機応変に、その生き方さえも変化させているのである。

(中略)

植物は動物に比べて可塑性が大きい。それは、どうしてだろうか。

動物は自由に動くことができるので、エサやねぐらを求めて移動することができる。しかし、植物は、動くことができない。そのため、生息する環境を選ぶことができないのだ。その環境が生存や生育に適さないとしても文句を言うこともできないし、逃げることもできない。その環境を受け入れるしかないのだ。

そして、環境が変えられないとすれば、どうすれば良いのだろうか。環境が変えられないのであれば、環境に合わせて、自分自身が変化しない。だから、植物は動物に比べて

— JA1A_8 —

「変化する力」が大きいのである。

植物の中でも雑草は可塑性が大きく、自由自在に変化することができる。この「変化する力」にとって、もつとも重要なことは何だろうか。

それは「変化しないことである」と私は思う。

植物にとって重要なことは、花を咲かせて種子を残すことにある。ここはぶれることはない。種子を生産するという目的は明確だから、目的までの行き方は自由に選ぶことができる。だからこそ雑草は、サイズを変化させたり、ライフサイクルを変化させたり、伸び方も変化させることができるのである。

つまり、生きていく上で「変えてよいもの」と「変えてはいけないもの」がある。

環境は変化していくのであれば、雑草はまた変化し続けなければならない。しかし、変化しなければならぬとすれば、それだけ「変化しないもの」が大切になるのである。

踏まれても踏まれても立ち上がる。

これが、多くの人が雑草に対して抱く一般的なイメージだろう。人々は、踏まれても負けずに立ち上がる雑草の生き方に、自らの人生を重ね合わせて、勇気付けられる。

しかし、実際には違う。雑草は踏まれたら立ち上がらない。確かに一度や二度、踏まれたくらいなら、雑草は立ちあがってくるが、^③何度も踏まれれば、雑草はやがて立ち上がらなくなるのである。

雑草魂^{だまし}というには、あまりにも情けないと思うかも知れないが、そうではない。

そもそも、どうして立ち上がらなければならないのだろうか。

雑草にとって、もつとも重要なことは何だろうか。それは、花を咲かせて種子を残すことにある。そうであるとすれば、踏まれても踏まれても立ち上がるという無駄なことにエネルギーを使うよりも、踏まれながらどうやって種子を残そうかと考える方が、ずっと合理的である。だから、雑草は踏まれながらも、最大限のエネルギーを使って、花を咲かせ、確実に種子を残すのである。まさに「変えてはいけないもの」^④がわかっているのだろう。努力の方向を間違えることはないのだ。

^⑤踏まれても踏まれても立ち上がるという根性論よりも、雑草の生き方はずつとしたたかなのである。

(稲垣栄洋『植物はなぜ動かないのか―弱くて強い植物のはなし―』)

*指標……判断するための目じるしとなるもの。

*攪乱……かき乱すこと。混乱が起きること。

*ライフサイクル……植物の、種になる前から次の世代の種を作るまでの一周期の過程。

問一

A には同じ語があてはまります。あてはまる語として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ そして ウ 一方

エ また オ しかし

問二

B にあてはまる語として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ むしろ ウ つまり

エ ただし オ さらに

問三

①「雑草の可塑性の重要性はそれだけではない」とありますが、このほかには「雑草の可塑性の重要性」としてどのようなことがありますか。十五字以内で答えなさい。

問四

②「当たり前のように思えるかも知れないが、これはなかなか難しい」とありますが、それはなぜですか。その理由を四十～四十五字で答えなさい。

問五

③「何度も踏まれれば、雑草はやがて立ち上がらなくなるのである」とありますが、それはなぜですか。その理由を二十～二十五字で答えなさい。

問六

④「『変えてはいけないもの』』とは何を指しますか。本文中より抜き出して、「こと。」に続くように十五字以内で答えなさい。

問七

⑤「踏まれても踏まれても立ち上がるという根性論よりも、雑草の生き方はずつとしたたかなのである」とはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 雑草にとって、人々が思うのかべる雑草魂とは、無駄な力を使うことではないということ。

イ 雑草は、圧力をはねのけるのではなく、圧力の下で種を残す努力をしてきたということ。

ウ 雑草は、踏まれれば踏まれるほど、花を咲かせ種を残す能力が強くなっていくということ。

エ 雑草にとって、踏まれることはさほど問題ではなく、種子を残す能力に関係はないということ。

オ 雑草が圧力をはね返すということは、人の思いこみで、実際は圧力をはね返さないということ。

本文の内容に合うものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア すべての植物は、生育する場所や環境によって、一年草になるか越年草になるかが決まる。

イ 生物の中で、大きさや生き方を自由に変える力を持っているのは、雑草だけである。

ウ ヒメムカシヨモギは、環境に適応する能力が高いため、世界中に広がることができた。

エ 野菜や花を栽培するときには、花や実を付けさせるために肥料を減らした方が良い。

オ 動物よりも植物の方が変化する能力が高いため、生き残る確率は植物の方が高い。

【三】 次の①～⑩の の漢字はひらがなに、カタカナは漢字になおしなさい。

① 生け花の流派。

② 富国論をとなえる。

③ 植木に追肥する。

④ 朗らかな春の日。

⑤ 売り場に群がる人々。

⑥ イシツなものが混じる。

⑦ 原油をセイセイする。

⑧ 山脈のウラガワを通る。

⑨ 先をアラソって乗車する。

⑩ 小鳥を部屋でカウ。

[illegible][illegible]

⑨	⑦	⑤	③	①
つて	する	がる	する	
⑩	⑧	⑥	④	②
う		な	らかな	

[illegible]

受験番号		氏名		得点	
------	--	----	--	----	--